

福岡ITコーディネータ推進協議会様との交流会

2011年11月5日(土)福岡市にて「福岡ITコーディネータ推進協議会」との交流会が開催されました。「福岡ITコーディネータ推進協議会第15回定例セミナー」として福岡より30名程度、ITC中部からは秋山広報委員長を始め、5名が参加し大変盛況でした。福岡ITコーディネータ協議会の栗協会長様、溝田研修委員長様の挨拶に始まり、秋山広報委員長挨拶と「ITC中部の紹介」、伊藤実広報委員による「中部のクラウドの取り組み状況及び中国のIT事情」の講演を実施し、福岡ITコーディネータ協議会からは栗協会長様の「ファシリテーション実践スキル『ワールドカフェ』を実体験しよう！」が実施されました。ワールドカフェ演習として①5/10年後ITCとしてどんな活動をしているか?②その為に福岡ITコーディネータ推進協議会に何をしたいか?を課題として提示され、小グループに分かれて議論を楽しみ、最後に各グループの検討内容の発表を行いました。当ITC中部にも通じる共通の課題が提示され、私の所属する企画委員会でも是非検討してみたいと感じたと思います。

セミナーの後は場所を移して美味しい料理とお酒に舌鼓を打ちながら懇親会が開催され、そこでも活発な意見交換が行われ福岡ITコーディネータ協議会の皆様との絆を深めることが出来ました。また、翌日は博多の町を皆様で散策され、楽しまれた様で、中には博多滞在中に博多ラーメンを5杯も制覇された方がいらっしゃったようです。

広報委員以外のメンバーとして始めて参加させていただきましたが、他地域のITCの皆様との交流は刺激になり、非常に有意義なものでした。是非皆様も、次回の交流会にご参加されることをお勧めいたします。

(ITC中部 上島 茂明)



懇親会の様子



セミナーの様子



第11回架け橋会ゴルフコンペ

2011年10月22日(土)ITC中部広報委員会主催の第11回架け橋会ゴルフコンペが、岐阜県多治見市の多治見北ゴルフ倶楽部で開催されました。当日は朝からかなりの雨が降っていましたが、皆さまと朝食を食べながら「中止かな?」と話しているうちに小雨になり、スタート時には降り止みました。そして、参加者全員で和気あいあいと楽しくラウンドすることができました。ラウンド後はパーティーを開催し、ダブルペリアによる成績発表を行います。今回、優勝はネット73.2で矢口理事長、ベストスコアはグロス86で近藤さんでした。私は、ネット75.2で準優勝になりました。賞品は参加者全員が持ち寄った品物を成績順に好きな物を選んでいきますので、場合によっては(見た目)高価な物やレア物が最後まで残っていることもあります。

架け橋会ゴルフコンペはITC中部会員の交流と親睦を図ることを目的に年2回開催されており、私は平成20年の第5回から参加するようになりました。最初は様子が分からないので不安でしたが、皆さん楽しく親切な方ですので実際には何の問題もありません



上段右から4番目が筆者

でした。また、コンペの企画・運営は全て広報委員会の方がされているので、今では何の心配もなく大船に乗ったつもりで参加しています。参加したいけど不安に思っている方、次回(H24春)からは是非とも参加してみてください。

(ITC中部 堂本 文博)

事務局だより

ここ最近、クラウドコンピューティングのニーズが高くなっています。と言っても、中小企業では「クラウドコンピューティングって何?」とおっしゃる社長も数多くいることも事実です。私の話で恐縮ですが、昨年の夏以降、セールスフォースを活用した顧客情報の見える化&営業プロセスの見える化をいくつかの中小企業で行ってきました。クラウドコンピューティングには興味がある社長はいましたが、顧客との関係を今より良くすることには興味がありました。個人営業から会社全体で営業していくことには興味がありました。経費削減には興味がありました。ベンダーの言いなりから脱却する事には興味がありました。事業継続にはそれほ

ど積極的ではなかったと思います。ITコーディネータがクラウドコンピューティングを企業に提案する場合、「クラウドありき」での提案ではなく、企業の課題を解決するツールの1つの選択肢として「クラウド」を活用するという提案にすることが決裁への第一歩だと思います。FacebookやTwitterという旬のソーシャルメディアも企業がどのように活用できるのか、どのようにして売上アップ・経費削減に貢献できるのかを具体的に提案することができるようになることがだと思います。

(ITC中部事務局 山本 健太)

NPO・ITC中部広報誌第18号 平成24年3月31日 発行

発行:NPO・ITC中部広報委員会(〒460-0022 名古屋市中区金山5丁目11-6(NSC内))
 発行責任者:NPO・ITC中部 理事長 矢口 隆明 編集責任者:NPO・ITC中部 広報委員長 秋山 剛
 ホームページ(http://www.itc-chubu.jp/)

NPO・ITC中部 広報誌

Vol.18

架け橋

特定非営利活動法人

ITC中部

http://www.itc-chubu.jp/

ITCのビジョン



目次

ITC中部の未来に向けて

1

ITCの将来ビジョン

2

ITCになって人生が変わりました!

2

明治村自主勉強会

報告

3

IT経営カンファレンス

2012

3

福岡ITコーディネータ協議会様との交流会

4

第11回架け橋会ゴルフコン

4

事務局だより

4

ITC中部の未来に向けて

ITC中部ビジョン検討委員会が設置され、ITC中部の将来に向けて1年間検討してきました。その答申が2月22日の理事会にて承認されましたので、その概要をご報告します。

1. 基本認識

①ITCの理念の追求

ITCは、企業とITベンダーの間に立って、企業が真に経営効果を上げられるように、効果的なプロセス(ITCプロセスガイドライン)に沿って、経営戦略～ITシステム構築/評価/改善まで一貫して支援し、さらには日本経済全体の発展にも寄与するというもので、ITC中部もこれを目指します。

②ITCの資格が基本

ITC中部はITCの資格を持った方々によって構成されており、資格が組織の基本である。従ってITCの資格を付与しているITC協会との整合性と密接な連携が重要であり、会員の資格維持の支援活動も重要な活動として捉えなければならない。他方、持続的に発展させていくためには、ITCの資格そのものに対する信頼/尊敬を高め、そのブランド力の向上が必須である。

③ITC中部の構成要員への配慮

ITC中部の構成は企業内/独立系、ベンダー系/ユーザー系/税理士など専門家、など様々です。今後の活動方針を考えるに当たり、特定の層に偏るのではなく、各層の特性を考慮した活動を展開しなければならないと考えます。ITC中部は約250名の日本最大の組織人数を誇っているが、これもITC中部の武器であり、これを維持・拡大していくことも重要な使命です。

2. ITC中部の今後の方向について

①ITCのブランド力UP

ITC中部は、「ITC」という資格を通じての団体であり、この資格に対する社会の信頼度が重要です。そのためには、ITCという資格そのものの認知度・信頼度(ブランド力)を向上させていかなければなりません。10年の歴史があるものの、ITCの認知度がいまの現在、ITC中部として、このブランド力アップが最重要テーマの一つであるといつてよいでしょう。ITCは経済産業省の指導の下、ITC協会が行っている資格制度であり、経済産業省やITC協会と密なる連携の元、ブランド力向上の活動を展開する必要があります。

②ITC中部の活性化

ITC中部の会員数は全国一の規模を誇っていますが、退会する方も出てきており、活動のマンネリ化も指摘されています。会員に対するサービス向上を強化する必要性に迫られており、そのために、様々な活動を通じて組織の活性化を進めます。

③委員会の充実

ITC中部におけるもっとも中心となっている活動は委員会活動です。ITC中部がここまで維持できた理由の一つは各委員会が努力してきたからです。今後も時代の変化に合わせて、この委員会制度をさらに充実させ、ITC中部の活動の基盤として考えるべきです。

④会員数の維持・拡大

中部地区に在住しているITCの加入促進と同時に、魅力ある活動を展開し、会員数の維持・拡大を図っていかねばなりません。

3. ITC中部の今後の活動方針

ITC中部はこれまでの成果を継承しつつ、新たな展開が必要です。広報、BizUp、企画、プロジェクトの各委員会を機能別に再編成・強化し、次のような新たな活動を付加していきたいと考えます。

但し、事業展開に当たってはルールと条件を明確しておくことが重要で、公平性・公開性をきちんと保つことが大前提です。

①事業

(事業収入、仕事の場の提供、PR効果を狙う)
 三方マッチング事業・有料研修事業・委託事業

②教育(スキルアップ)

(目的に応じたコースの整備を行う)
 入門コース・一般コース・OJTコース

③交流会

(広報、PR、楽しさ、出会い機会創出)
 ITC中部内の交流・外部ITC組織との交流・中小企業との交流

④ITC協会・中部経済産業局への渉外活動

(ITC資格制度普及・発展・向上を促進する)

⑤委員会活動への参加拡大

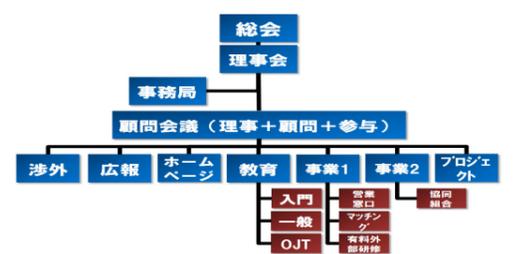
(参画意識の向上、活動の充実)
 全会員の30%の参加を目指します。

⑥楽しさのチャンス創出

4. 新たな組織編成

①基本方針に沿った新たな組織編成を行う

・委員会活動のさらなる充実
 ・新たな事業展開、渉外などへの組織新設
 ・理事会と委員会の密接化



・研修・教育の多様化と充実
 ・新たなメンバー/若手の登用、など

5. 会員の皆様へ

平成24年度に向けて、ITC中部もビジョン検討委員会の答申を受けて、さらなる活性化に向けて努力していきます。会員の皆様の積極的なご参加をお願い致します。

特に委員会への参加をお願いします。新設される委員会も含め、各委員会からお誘いの案内があるかと思いますが、皆様にはどこか1つにご参加いただきたいと考えております。

(ITC中部 副理事長、ビジョン検討委員長 和澤 功)

ITCの将来ビジョン

尊敬する中部ITCの皆様へ

挨拶ぬきに結論から入ります。

●ITC将来ビジョン(一般的でなく私自身のビジョンです)
3年後の姿:私の周りに5人の1,000万円(以上)プレーヤーがいる。
①自分自身はエグゼクティブ・コーチング(EC)に徹する
②ECを通し、ITとしての課題が出てくればITCパートナーにお願いする。
③ECの後継者を育て、シニアとジュニアが役割分担する世界を築く。
なぜ、このビジョンなのか。
中部地区の活躍を参考にした中小公庫取引先への経営者研修等をきっかけにビジネスは拡大し、登録ITCパートナーとともに常時10社ほどをこなしてきた。残念ながら1000万円プレーヤー数名の姿は達成できなかった。リーマンショック以来、中小企業のIT投資意欲はガタ落ち、昨年のご存じの通りの環境で売上半減。ターゲット顧客も同様の環境の中で、本当に困っている。これまでのやり方では生きていけない。これからは「変わる力」が必要だ。IT投資意欲を生まないもうひとつの理由に、「一応システムは動いており特に困っていない状況」と経営者は考えていることがある。多くの企業は

すばらしくITを使いこなしている訳ではない。さらなるIT活用による経営力強化を図り「企業が変わる力」をつけて欲しい。企業が変わるためには、ビジョンがあり、戦略があり、施策がなくてはならない、その実現のためには最後はITに頼ることが得策とITCは分かっている。ならば、経営者にも気づいてもらおう。経営者のふとこころに飛び込み、彼のために何ができるかを考えよう。実際に入り込んでしまえば山ほどの課題があり、信頼を勝ち取ればITCのお役立ちの場は間違いなくある。問題は、いかに経営者のふとこころに飛びこめるかだ。そこで私はECから入る。特に幹部・管理者の育成に多くの経営者は悩んでいる。そこを突破口としたい。しかしながら企業支援の経験を積みないと多分ここからは入れない。そのための「経験を積んだITC」と「これからのITC」の役割分担のあり方及びそのキャリアパスの確立に挑戦したい。



田中 渉氏

(東京IT経営センター 田中渉)

ITCになって人生が変わりました!

遠赤青汁株式会社は、青汁を中心とした健康食品を製造、販売しています。素材のケールを愛媛県で有機栽培し、加工から販売までを一貫して自社で行っています。全国有名百貨店での催事販売をはじめ電話通販、ネット通販、テレビショッピング、OEM製造、卸まで幅広い販売チャネルを持っています。また昨年、一昨年は香港で「四国物産展」を主催、本年は台湾への販売も進めています。

有機JAS認定の申請、プライバシーマークの更新、大手企業との取引、海外とのやり取りに欠かせないのが、IT・インターネットの活用です。トレーサビリティや在庫・製造・出荷データ、顧客情報の管理など、取引先の増加に伴い業務は年々複雑化。IT化整備が急務となり、CIOとして私が取り組む事になりました。

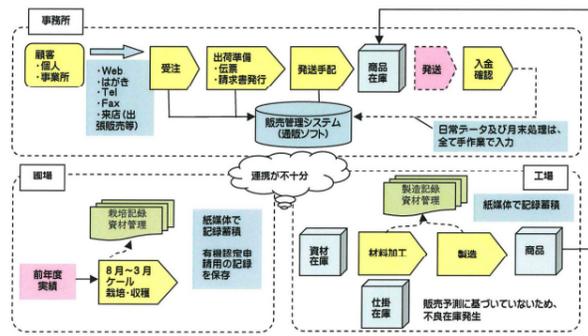
平成18年度IT経営百選「最優秀賞」を受賞。四国で唯一の受賞で弊社はIT経営実践企業として一躍注目を集め、社員の私が「IT経営について」等、先進事例として講演をする様になりました。しかし、経営の視点もなく、社員の想いだけでは、お話ししても本来の意味がお伝えできません。お話をすること、IT経営についての理解不足を痛感していました。そんな時、以前からご指導いただいた支援機関の方から「ITCを受けてみたら」と声をかけていただいたのです。PGLに出会い、研修を受ける中で、会社の良さ、足りないところが理解できました。改めてIT化に取り組んだ結果、2010年「全国商工会連合会会長賞」を受賞しました。

ITCになって私の人生は変わりました。ITは人です。社員のつながりが会社を強くし、地域を強くする。出会いがあり、縁が人を結ぶ。ITCもひとつのチームです。常に勉強する姿勢を仲間から学びました。今後は、育てていただいた地域にご恩をお返しできるように、共に力を合わせて取り組んでいきたいと思ひます。ご指導よろしくお祈いします。

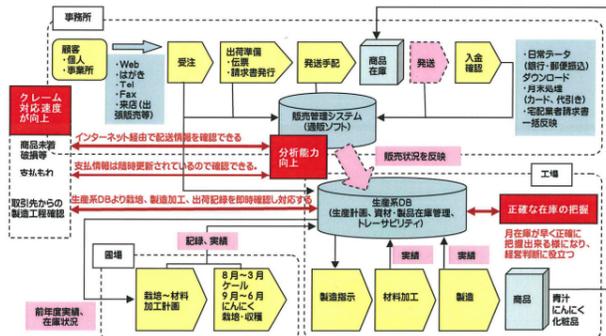
(ITC愛媛 渡部 一恵)



左が 渡部一恵さん



フロー前



フロー後

明治村自主勉強会報告

12月4日(日)博物館明治村では2回目となる自主勉強会について報告します。

当日は晴天でほとんど風もなく絶好の行楽日和でもありました。当日は18名の参加者とITC中部会員で明治村のボランティアガイドでもある池山さんと他1名の総勢20名での開催となりました。

集合後、第四高等学校物理化学教室へ移動。午前の部の始まりです。

午前最初は、学芸員の中野さんから明治村の歴史などについての講演をいただきました。この中では、入場者数が減少傾向になる中で、展示方法の工夫などについての説明もありこの後の見学でも大いに参考となる講演でした。

この後は、2グループに分かれての村内見学です。1丁目の三重県尋常師範学校近衛局本部付属舎、赤坂離宮正門哨舎、聖ヨハネ教会堂、西郷従道邸、森鷗外・夏目漱石住宅などを、ボランティアガイドの方の説明で見学。(筆者参加グループ)

物理化学教室での昼食後は、本日2つ目の講義を明治村所長の横幕さんより明治村の経営について講演いただきました。

名古屋鉄道株式会社から独立して株式会社名鉄インプレスとなり、厳しい経営環境の中でどのような事業をおこなっているのかなどについて大変興味深いお話をいただきました。

講演の後は再び2グループに分かれての見学です。

筆者の参加したグループを率いるガイドさんは1番人気のあるボランティアガイドさんにより見学。西園寺公望別邸、帝国ホテル中央玄関、金沢監獄中央看守所・監房、宮津裁判所法廷、聖ザビエル天主堂、鉄道局新橋工場を村内バスにて移動しながら見学。最



「明治村自主勉強会」の様子

後に三重県庁舎にて他グループと合流して記念写真撮影し無事自主勉強会を終えることができました。

最後に今回の自主勉強会実施に当り、当日及び事前準備段階から協力頂いた池山昭夫さんや関係各位に末筆ながらお礼を申し上げます。

(ITC中部 東條 理)

IT経営カンファレンス2012

平成24年2月29日ウイंकあいちにて「IT経営カンファレンス2012 in NAGOYA」と「情報化サミット2012」が開催されました。午前はITコーディネータ協会、ITC中部、ITコーディネータ岐阜、三重ITコーディネータの会、石川県情報化支援協会、ITコーディネータ富山主催の「IT経営カンファレンス2012 in NAGOYA」(参加者126名)、午後からは中部経済産業局主催の「情報化サミット2012」、夕方からは「中部IT経営力大賞受賞企業懇親会」(参加者35名)の3部構成で盛大に開催されました。

「IT経営カンファレンス」では、「クラウド時代に向けたITコーディネータの役割」と題し、ITコーディネータ協会の播磨崇会長による基調講演がありました。クラウドを活かした新しいビジネスモデルの可能性と、ますますスピード経営が求められる時代の中でのITコーディネータの担う役割など、次代を期待させる内容でした。中部IT経営力大賞の表彰式では大賞受賞の大津鉄工株式会社様をはじめ6社が表彰され、優秀賞の2社による事例発表がありました。知識や情報のレベルではなく、実際にIT経営を実践している事例にはやはり説得力があり大きな刺激となりました。

「情報化サミット2012」も有意義な内容で、サイボウズ青野氏の講演はクラウド時代への変革を予感させる内容でしたし、クラウドを活用した2社のIT経営事例の発表は、参加者の皆さんも大いに興味を持って聞いている様子が印象的でした。

今回、中部IT経営力大賞の審査員も務めさせていただきましたが、受賞には至らなかった他の応募企業様の取り組みもそれぞれ素晴らしい面がありました。審査を通じて、私自身がITCのひとりとして多くを学ばせていただきました。

常に環境が変化していく中で、企業継続が社会貢献につながるものであるなら、「IT経営の実践」も継続していくことが大きな社会貢献につながるものと思ひます。ITCも産業社会を担う役割としてますます重要になるものと思ひます。このような重要なイベントを来年度以降も継続して開催していくためにもITCをはじめ皆様のご協力をお願い申し上げます。

(ITC中部 平下哲也)



「中部IT経営力大賞」受賞者の皆様



懇親会風景(左端が筆者)